

Nihonbashi Opera Tokyo 2022

LA TRAVIATA

Giuseppe Verdi



Alexandre Dumas fils

日本橋オペラ 2022

歌劇 椿姫

ジュゼッペ・ヴェルディ作曲
アレクサンドル・デュマ・フィス原作



Sunday, May 22, 2022 Nihonbashi Theater Tokyo

2022年5月22日(日) 日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会会長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ 2022 歌劇「椿姫」にご来場頂きありがとうございます。

日本橋オペラ研究会は 2013 年に中央区社会教育団体として創立、2015 年こちらの日本橋劇場で楽劇「トリスタンとイゾルデ」を室内オーケストラで上演して以来、ほぼ毎年オペラを上演してきました。昨年 5 月にはメサジェ作曲歌劇「お菊さん」を日本初演、公演は音楽の友誌やインターネットのウィキペディアでも紹介され、文字通り日本の音楽史に足跡を刻むことができました。また昨年 12 月には文化庁 AFF の助成を受けて、桂ヨネスケ師匠をプレゼンターに、地元日本橋出身で日本人初の女優川上貞奴の人生を歌劇「椿姫」に読替え、鹿鳴館、パリ万博、帝国女優養成所を舞台として、歌劇「貞奴姫」を創作上演しました。そして本日はその「椿姫」全曲を上演します。アルフレード役の村上敏明氏は新国立劇場や NHK ニューイヤーコンサートの常連でもあり、日本を代表するテノール歌手です。日本橋オペラにこうして名実共日本のトップテナーの方が出演していただけるようになったことは、ひとえにこれまで日本橋オペラを支えて下さった皆さまのおかげと、心から感謝いたします。本年 12 月 3 日（土）には、昨年同様文化庁 AFF2 の助成を受けて、ジャポニスム三部作（イリス、お菊さん、蝶々夫人）名場面と「アイダ」凱旋の場、そして来年 5 月 21 日（日）には日本橋オペラ創立 10 周年を記念して「アイダ」（金管五重奏 + ピアノ版）の世界初演を予定しています。ウクライナ情勢など激動の時代ですが、この時代に生きる人間が何かを感じて、いまこうして音楽ができること、皆さまとの瞬間を共有できることを心から感謝して歌いたいと思います。

福田祥子（Shoko Fukuda）ソプラノ／ ヴィオレッタ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテッロ、イル・トロヴァトーレ、オネーギン、パリアッチ等に主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』（音楽現代）と批評を受ける。ウィーンとバイエルンの国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場（ブルガリア）、コシチェ国立歌劇場（スロバキア）などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。昨年 5 月には、日本橋オペラ研究会会長として自らタイトルロールと演出を担当、長崎が舞台のフランスオペラ「お菊さん」の日本初演、世界でも 92 年ぶりの蘇演を成功に導き、音楽の友などの専門誌から絶賛された。東京二期会、関西二期会各会員。



佐々木 修（Osamu Sasaki）／指揮

青森県弘前市出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979 年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982 年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」（オペラ・コンツェルト誌）と好評を受け、国際モーツァルトウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984 年ベルリン・ドイツ響を指揮してベルリンフィルハーモニーホールでドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM シンフォニーコンサートのパーソナリティー、タモリの音楽は世界だ！等の音楽番組制作、映像・CD・WEB 制作、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、AI 特許など、マルチなタレントで活躍。さらに新型コロナウイルスで大規模なオーケストラでの上演が困難となった世界のオペラハウスで、佐々木が日本橋オペラのために編曲、国際楽譜図書館プロジェクト（ペトルッチ）に提供している小編成のオーケストラ譜を使って、トリスタンとイゾルデ（ハノーファー、ケンブリッジ）、椿姫（ニューヨーク）、蝶々夫人（ローマ）などが上演され絶賛されている。日本橋オペラ常任指揮者。



村上敏明（Toshiaki Murakami）テノール／アルフレード・ジェルモン役

人気実力ともに、日本を代表するテノール歌手。国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員他の奨学金を得て、2001 年より 2007 年までイタリア・ボローニャに留学。イタリアオペラを中心に 60 役を超える幅広いレパートリーを有し、国際的に活躍を続けている。2002 年に、オルヴィエートのマンチネッリ劇場にて「リゴレット」マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。藤原歌劇団・新国立劇場等で、多くのオペラ公演に主演し、常に最大級の賛辞を受けている。第9回マダムパタフライ世界コンクール優勝のほか、15の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。2004 年には、「第 40 回日伊声楽コンクール」第 1 位、「第 35 回イタリア声楽コンクール」シエナ大賞の国内 2 大タイトルを獲得する。2012 年以降、NHK ニューイヤーオペラコンサートに 11 年連続出演。今後も、多くの大舞台に出演が予定されている。平成 16 年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。八王子コミュニティオペラ芸術監督。勝浦歌劇団総監督。藤原歌劇団団員。村上敏明公式ウェブサイト <https://www.iltenoremurakami.com/>



森口賢二（Kenji Moriguchi）バリトン／ジョルジュ・ジェルモン役

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員としてイタリアに留学。第 22 回飯塚新人音楽コンクール第 1 位。第 36 回ローマフェスティヴァル国際コンクール第 1 位。藤原歌劇団公演には、『ランスへの旅』『ラ・ボエーム』『愛の妙薬』『セビリアの理髪師』『オリィ伯爵』『ファルスタッフ』『椿姫』『仮面舞踏会』『ドン・パスクワーレ』『道化師』等に出演。また 2022 年 4 月には『イル・カンピエッロ』騎士アストルフィ役に出演。日本オペラ協会公演には、『天守物語』『ミスター・シンデレラ』『静と義経』等に出演。また新国立劇場公演には、『マノン・レスコー』『ウェルテル』『ラ・ボエーム』『ホフマン物語』『トゥーランドット』『カルメン』等に出演し、いずれも好評を博す。現在、日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。オペラサロントナカイ・ミュージックディレクター。



飯沼友規 (Tomoki Iinuma) / 演出

千葉市出身。日本大学芸術学部音楽学科声楽専攻を首席で卒業。同大学院芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程を修了。卒業後、オペラ歌手としてイタリア留学で研鑽を積み、帰国後、自身が演奏活動をする傍ら、企画演奏団体 Y's company を立ち上げ、演奏、後進の指導に加え、企画、構成、演出も行うようになる。これまでの出演作品としては、「椿姫」(アルフレード)、「外套」(ルイーダ)、ナブッコ(イズマエーレ)、「カヴァレリア・ルスティカーナ」(トゥリッドゥ)など、オペレッタでは「こうもり」(アイゼンシュタイン)など、またこれまでに演出を手掛けた作品としては「コジ・ファン・トゥッテ」、「愛の妙薬」、「メリー・ウィドウ」、「こうもり」、「チャールダーシュの女王」などがある。現代の人々に合わせた細かい心理描写の中にも斬新なスパイスを加え、笑いを生み出す演出方法から喜劇を得意としている。



越知晴子 (Haruko Ochi) / ピアノ

京都市出身。京都市立芸術大学卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーションから助成を受け渡独。ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。同大学講師を経て帰国。第7回 Josef Suder 国際歌曲コンクールにて最優秀伴奏者賞受賞。Kissinger sommer 国際音楽祭、仙台クラシックフェスティバル、ロームミュージックフェスティバル等国内外の数多くの演奏会に出演。またベートーヴェンバイオリンソナタ全曲演奏会、シャネルピグマリオンデイズ室内楽シリーズなど室内楽の分野においても活躍する。バイエルンラジオ放送、NHK-FM、NHK テレビ番組「らららクラシック」「クラシック倶楽部」「クラシック音楽館」でも演奏する。また歌手のCD録音での伴奏も務める。現在、新国立劇場、滋賀県立びわこホール、関西二期会等で音楽スタッフを務め多くのオペラプロジェクトに関わる。京都市立芸術大学、神戸女学院大学非常勤講師



小川嘉世 (Kayo Ogawa) / ソプラノ/アンニーナ役

国立音楽大学声楽科卒業。コンセルヴァトアール尚美ディプロマ科、東京二期会研修所マスタークラス修了。これまでに国立音楽大学東京同調会、東京二期会、DGC・NGO 国連クラシックライブ協会、文化庁支援事業コンサートに出演。オペラにも多く出演し自主企画公演なども開催している。ベートーヴェン「第九」、ロッシェニ「小荘厳ミサ」のなどソロを務める。板橋区演奏会協会、東京室内歌劇場、東京二期会会員。しっとくれ〜て代表。



山畑晴子 (Haruko Yamahata) / ソプラノ/フローラ役

東京藝術大学声楽科卒業。'07年M. グリエルミ声楽講習会にて最優秀賞授与。'07年より第1回、第2回国際プッチーニマラソンに日本人代表として出演。'08年より短期で渡伊を繰り返す。'09年ベッリーニ「ノルマ」のタイトルロールでオペラデビューし、ヴェルディ「ドン・カルロ」のエリザベッタ、「仮面舞踏会」のアメーリア、「椿姫」ヴィオレッタ、「ナブッコ」アビガイッレ、プッチーニ「トスカ」、「マノン・レスコー」、「蝶々夫人」、「修道女アンジェリカ」、「トゥーランドット」の各タイトルロール、「外套」のジョルジュッタ、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」のサントウツァ、ジョルダノ「アンドレア・シェニエ」のマッドレーナ等、プリマソプラノとして活躍中。現在、イル・テアトロ音楽院副代表



井出 司 (Tsukasa Ide) / テノール/ガストン子爵役

昭和音楽大学卒業。同大学院修了。高橋喜久子、的場辰朗、F.C オーバ、E. ドウンデコーヴァの各氏に師事。立石信雄奨学金、下八川圭祐基金を得てイタリアに留学。日本クラシックコンクール最高位、イタリア・ペーザロ市国際音楽コンクール第三位など多数受賞。「ピーア・デ・トロメイ」ギーノ役でオペラデビュー。「ファルスタッフ」「愛の妙薬」「椿姫」「リゴレット」「オベルト」など主要キャストで出演。藤原歌劇団では「ランメルモールのルチア」アルトゥーロ役、「椿姫」ガストン役、「ランスへの旅」ゼフィリーノ役、「蝶々夫人」ゴロー役で出演。また「第九」、「メサイア」にソリストとして出演。フォルテサロンメンバー、日本オペラ協会会員、藤原歌劇団団員。



飯塚学 (Manabu Iitsuka) / バリトン/ドビニー侯爵役

東京音楽大学 卒業、同大学院オペラ研究領域修了。2009～2016年イタリアローマへ留学。イタリアにて「ラ・ボエーム」マルチェッロ役でデビュー。2017年日本演奏家コンクール第3位、2018年東京国際声楽コンクール奨励賞を受賞。第47回イタリア声楽コンコルソ・シエナ部門入選。ルーマニアコンスタンツァ国立歌劇場オペラ「イル・トロヴァトーレ」ルーナ伯爵、「仮面舞踏会」レナート、「トスカ」スカルピア 2018年神奈川県民ホールオペラ 宮本亜門演出「魔笛」パパゲーノのアンダースタディでハイライトコンサートなどに出演。声楽を小川雄二、高橋啓三、堀内康雄、L. セッラ、S. カッローリ、P. マウロウク、A. ガザーレ各氏に師事する。



奥村泰憲 (Yasunori Okumura) / バリトン/ドゥフォール男爵役

エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業、同大学院修了後、セルビアとルーマニアに短期留学。2005年よりウィーン国立音楽大学声楽科、プライナー音楽院指揮科・オペラ科で研鑽を積む。2006年ウィーンでシュッツ「マタイ受難曲」イエスでソリストデビュー、また同地でグルック「トーリードのイフェジェニー」トアス王を歌いオペラデビュー。フランス、デンマーク、マケドニア、オーストリア、ドイツで独唱会。「天地創造」「第九」「カルミナブラーナ」などソリストを多数務めオペラでは「魔笛」「ラ・ボエーム」「カルメン」「道化師」など46の役を演ずる。シェンベルク合唱団、BCJの公演や録音に参加。現在11団体の指導を務める。



矢田部一弘 (Kazuhiro Yatabe) / バリトン/グランヴィル医師役

国立音楽大学声楽学科卒業、同大学院オペラ科修了。G. ラウリ・ヴォルピ他の国際コンクールに入賞。ヨーロッパ各地でオペラ、コンサートに出演。近年はヴェルディの声と評され、当たり役の「ナブッコ」ザッカーリア、「リゴレット」スバラフチーレ、「レクイエム」他、多くのヴェルディ作品に出演。ロッシェニ作曲「セヴィリアの理髪師」、モーツァルト作曲「魔笛」、トマ作曲「ハムレット」等、レパートリーは幅広い。国内外で高評を得た「ラ・ボエーム」コッリーネ、「トゥーランドット」ティムール等、プッチーニ作品にも定評がある。五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。国立音楽大学講師。CD「Preghiera-- 祈り --」好評発売中。



根岸一郎 (Ichiro Negishi) / テノール/ジュゼッペ役・合唱

武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学第一文学部仏文専修卒業。パリ第IV大学比較文学修士課程修了。アンリ・ソーゲ国際コンクール(仏・マルティグ)日仏声楽コンクール(東京)、フランス音楽コンクール(大阪)に入賞。中世・ルネサンス音楽から現代作品まで幅広く活動し、フランス近代歌曲での評価は特に高く日仏声楽コンクール審査員を務める。東京室内歌劇場、日本フォーレ協会他会員。



高橋千夏 (Chinatsu Takahashi) ソプラノ／合唱
 昭和音楽大学卒業。第1回日本歌曲コンクール奨励賞受賞。W. マッテウツィ、M. デヴィーア、D. マッソーラ各氏によるマスタークラスを受講。第82回読売新人演奏会に出演。『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』フラスキータ役、『フィガロの結婚』スザンナ役、『お菊さん』(日本初演)お雪役などに出演、音楽の友、モーストリー・クラシックなどの好評を得る。



小宅慶子 (Keiko Oyake) ソプラノ／合唱
 東京音楽大学声楽専攻声楽演奏家コースを卒業。これまでに声楽を伊藤和子、片岡敬、水野貴子、小森輝彦、武田正雄、松井理恵の各氏に師事。新宿区民オペラ『トゥーランドット』に侍女役で出演。日本橋オペラには『お菊さん』桔梗役で出演。北区文化財団アーティストバンクにグループ《Magokolo》として登録。現在サントリーホールオペラアカデミー第6期生。



石井揚子 (Yoko Ishii) ソプラノ／合唱
 法政大学法学部卒業。第13回ルーマニア国際音楽コンクール入選。コンセール・ヴィヴァン新人オーディション合格。「子供と呪文」子供、「サンドリヨン」サンドリヨン、「カルメル派修道女の対話」ブランシュ、「ホフマン物語」アントニア、「ジャンニ・スキッキ」ネッラ、「チェネレントラ」クロリダ、「カルメン」フラスキータ等出演。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。



窪 瑤子 (Yoko Kubo) メゾソプラノ／合唱
 日本大学芸術学部音楽学科卒業。東京音楽大学大学院オペラ研究領域修了。第57期二期会オペラ研修所修了。2011年スペイン音楽国際講習会に、スペイン政府の奨学金を得て参加。第48回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞を受賞。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。ラファーレ、アリアス、劇団東俳講師。



菊池未来 (Miku Kikuchi) メゾソプラノ／合唱
 昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業。公益財団法人日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第37期修了。「秘密の結婚」フィグルマ役、「カルメン」メルセデス役、「ラ・チェネレントラ」ティーズベ役、「お菊さん(日本初演)」葎役、「メサイア」アルトソリストとして出演。これまでに村松玲子、故細川久美子、鈴木とも恵、八尋久仁代各氏に師事。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。



片野田名帆子 (Nahoko Katanoda) メゾソプラノ／合唱
 鹿児島県指宿市出身。鹿児島国際大学短期大学部音楽科卒業。同大学専攻科音楽演奏コース修了。独立行政法人大学評価・学位授与機構認定学士(音楽学)取得。洗足学園音楽大学大学院修了。これまでに「カヴァレリア・ルスティカーナ」ローラ役、「リゴレット」マッダレーナ役等出演。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。二期会準会員。音楽ユニット『あいもこいも』メンバー。



町村 彰 (Akira Machimura) テノール／合唱
 東京大学大学院修士課程修了。現在「聖グレゴリオの家」の教会音楽科在籍中。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にJ.S. バッハ『マタイ受難曲』福音史家、W.A. モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール/バスソリストなどを演奏。2021年度M-1グランプリ 一回戦出場(敗退)。



吉田 覚 (Satoru Yoshida) テノール／合唱
 洗足学園音楽大学ファゴット専攻卒業。その後声楽に転向。洗足学園音楽大学大学院声楽専攻修了。オペラでは「こうもり」アルフレード役、「トゥーランドット」ポン役などで出演。英国STAT公認 アレクサンダー・テクニク教師。アンドーヴァー・エデュケーターズ®日本公認指導者



片沼 慎 (Makoto Katanuma) バリトン／使者役・合唱
 バリトン。日本大学芸術学部音楽教育専攻卒業。同大学院博士前期課程声楽分野修了。声楽を齊田正子氏に師事。昨年度、日本オペラ振興会育成部を修了。修了公演《ドン・ジョヴァンニ》には題名役で出演。藤原歌劇団準団員。日本大学芸術学部演奏補助員。千葉県出身。



田村智仁郎 (Tomojiro Tamura) バリトン／合唱
 東海大学教養学部卒業。昭和音楽大学院修士課程修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。『偽の女庭師』ナルド役、『セビリアの理髪師』バルトロ役、『フィガロの結婚』アントニオ役、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・ジョヴァンニ役、マゼット役等オペラに出演。



布目紗綾 (Saya Nunome) バレエ
 クラシックバレエダンサー。様々な公演で活躍する他、独自創作活動「バレエジャンパー®」をSNS上で展開し多くのマスコミ媒体に掲載される。「バレエにゃんぱー®」キャラクターの作者。【受賞歴】ヨコハマコンペティション クラシックシニア部門 第3位、埼玉全国舞踊コンクール クラシック 1部 舞踊協会奨励賞、中野国際ダンスコンペティション創作部門入賞1位ヴィジュアルプライズ受賞



細野 生 (Ikuru Hosono) バレエ
 6歳よりバレエを始め12歳でSasaki Mika Ballet Academyに入所、佐々木三夏、池端幹雄に師事する。18歳より牧阿佐美バレエ団に入団し全ての公演に参加する。正確な足捌きとコミカルな演技に定評がある。出演作品「～La Fille mal gardee～ リーズの結婚」よりアラン「白鳥の湖」よりパ・ド・カトル、ナポリターナ「ライモンダ」よりパ・ド・カトル

歌劇「椿姫」の成立

この作品はジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)にとって、唯一の現代劇オペラといえる。原作はフランスの劇作家デュマ・フィス(1824-1895)の戯曲によっていて、フランス語の原作“La Dame aux Camélias”(椿の花の貴婦人)から、日本語に訳するに当たり、「椿姫」という題名を与えたが、ヴェルディのオペラのイタリア語タイトルは、La Traviata(道を踏み外した女、墮落した女)という。現在ではビゼーの「カルメン」、プッチーニの「蝶々夫人」とともに、世界の3大オペラといわれている。なお原作者のデュマ・フィスは、「モンテクリスト伯」や「三銃士」などを書いた、アレクサンドル・デュマ(大デュマ1802-1870)と、ベルギー出身のお針子とのあいだに生まれた私生児で、この「椿姫」の原作を書いたのは24歳のときだった。ヒロインのヴィオレッタのモデルになったのは、実在のマリー・デュプレシという女性で、彼女は当時的高级娼婦ドミ・モンドであったという。1853年ヴェネツィア・フェニーチェ座で初演された。また1918年(大正7年)赤坂ローヤル館で日本初演された記録がある。



マリー・デュプレシの肖像画(1845年)

マリー・デュプレシという女性で、彼女は当時的高级娼婦ドミ・モンドであったという。1853年ヴェネツィア・フェニーチェ座で初演された。また1918年(大正7年)赤坂ローヤル館で日本初演された記録がある。

あらすじ～第1幕

パリのヴィオレッタ邸のサロン。パーティもたけなわの一夜、大勢の客が女主人のヴィオレッタを取り巻いている。そこへガストン子爵が、友人のアルフレードを彼女に紹介する。アルフレードは南仏の富豪の息子だが、まだ遊びというものを知らない、純情そのものの青年である。以前から彼女を慕っていたアルフレードは、知り合った喜びを有名な、「乾杯の歌」に託してうたう。ヴィオレッタは客をダンスに誘い、ここから「ワルツと二重唱」になる。彼女は次の間に行きかけて、ちょっとよろめいて倒れそうになる。かなり重症の結核に罹っているのである。アルフレードは1人部屋に残って、彼女の介抱をする。ここで彼は愛の告白をして、1日も早くふしだらな生活から、足を洗うよう忠告する。彼女は突然のことに驚くが、彼の態度が真摯で誠実なのに、強く心を動かされる。アルフレードが帰ろうとすると、彼女は椿の花を一輪渡して、この花がしぼんだ頃に再会しましょうと、翌日に会う約束をする。

宴も終わり、客たちも帰って行くと、部屋にはヴィオレッタただ1人だけ取り残される。そしていよいよヴィオレッタのシェーナとアリア、「ああ、そは彼の人か～花より花へ」が始まる。まず本当の愛を知った喜びがうたわれ、将来の自分の幸せを思っとうっとりとするが、突然気を取り直して、たとえ人に愛されても、いずれは捨てられてしまう身の上、だからいっそのこと自由に享楽に耽ろうと、華やかなカバレッタ風のアリアになる。邸の外からは、アルフレードのうたう声が聞こえ、するとヴィオレッタの心は再び千々に乱れる。

第2幕-第1場

パリ郊外のヴィオレッタと、アルフレードの愛の巣。アルフレードは、愛の生活の喜びをアリア「燃える心を」に託してうたう。ところが現実の生活は厳しく、彼女は持ち物をパリで売りに出さねばならない。それを知ったアルフレードは、自分も金策のためにパリへ行く。1人残ったヴィオレッタのところへ、アルフレードの父ジェルモンが訪ねて来る。彼は真面目な自分の息子を誘惑するとなじるが、彼女が自分の財産まで投げ出して、彼に献身的に尽くしているのを知って心を改める。だがジェルモンは、娘の縁談に差し支えるから、涙を飲んで別れて欲しいと懇願する。泣く泣くそれを承知したヴィオレッタは、1人の女が自分の幸せを犠牲にしたと、お嬢さんに伝えてくださいという。最後はジェルモンが、彼女を慰め励まし帰って行く。ヴィオレッタは手紙を書いて、戻って来たアルフレードにジェルモンの来訪を知らせる。使いの者にその手紙を持たせ、アルフレードに届ける。彼は不審に思って封を切ると、それは離縁状である。彼は読んで驚き、そして怒る。そこへジェルモンが戻って来て、怒り悲しむ息子を慰める。有名なアリア、「プロヴァンスの海と陸」。だが息子はそれに耳を貸さず、復讐してやると叫んで出て行く。

第2幕-第2場

パリのフローラのサロンで、アルフレードがカードに興じている。そこへヴィオレッタが、ドゥフォール男爵と登場する。アルフレードはヴィオレッタに、本当に心変わりしたのかと詰問する。彼女はジェルモンとの約束で、仕方なくそうだと答える。すると彼は大勢の客の面前で、彼女の不実を罵り、彼女にカードで勝った金を叩きつける。ヴィオレッタはショックで気を失い、人々は彼の無礼を咎める。父親のジェルモンは、息子を叱りつける。もう取り返しがつかないと、後悔するアルフレード。それでも彼を思い続けるヴィオレッタと、思い思いの心を打ち明ける、大コンチェルタートで幕が下りる。

第3幕

前の幕から約1ヵ月後の謝肉祭の朝、彼女の結核は悪化して、持ち物も売り尽くして死を待つ身になっていた。医者グランヴィルが往診するが、彼はヴィオレッタを安心させるため、すぐに良くなるというが、彼女は信じてはいない。医者は帰りがけに、侍女アンニーナに、もう長くはないと耳打ちをして辞去する。ヴィオレッタはアンニーナに、用事をいいつけて1人になる。彼女は1通の手紙を取り出して、それを読み始める。ジェルモンからのもので、約束を守ってくれた礼と、アルフレードに真実を話したことが記されているが、彼女は読み終わってもう遅いわとつぶやく。そして鏡の中の自分をみながら、有名なアリア「さようなら、過ぎ去った日よ」をうたう。窓の外からは、謝肉祭の賑やかな合唱が聞こえて来る。するとアンニーナが駆け込んで来て、アルフレードが帰って来たことを告げ、続いてアルフレードが飛び込んで来て、2人はしっかりと抱き合う。彼は自分の非礼と身勝手な態度を詫び、彼女も生きて彼に会えたことを喜ぶ。そしてこれも有名な二重唱、「パリを離れて」がうたわれる。2人は喜びのお礼に、教会へ行こうと、ヴィオレッタは着替えをしようとするが、力が尽きてその場に倒れ込む。アンニーナが急いで、医者呼びに走る。そのときジェルモンと医者が、慌しく入って来る。ジェルモンは自分の行ないが、こうした悲劇を招いたのだと、深く後悔してヴィオレッタを初めて娘と呼び許しを乞う。ヴィオレッタは手箱の中から、自分の肖像の入ったメダルを取り出し、それを片身としてアルフレードに手渡し、いつの日か結婚するとき、その清らかな娘にこれをあげてと懇願する。そのとき不思議なことに、彼女の顔に明るさが甦り、気分が良くなって、苦しみの痙攣もなく、もう一度生きられるかも知れないというが、これが薄幸のヴィオレッタの最後の言葉で、アルフレードは彼女の名を呼んで泣き崩れ、ジェルモン、アンニーナ、医者3人は泣きながら神に祈る。幕。

出典：モバイル音楽事典(C)出谷 啓

2021年5月29日/30日 歌劇「お菊さん」日本初演



《馬淵明子氏（ジャポニズム学会会長・前国立西洋美術館館長）からのメッセージ》
あのオペラが日本で見られるとは、感激でした。とても楽しい舞台でした。なかでもプリマの福田さんの声の美しさや可憐な演技は素晴らしかったですね。能を取り入れたのも、興味深い演出でした。カタログを拝見すると、本当に細かいところまで調べられて、台本や楽譜を当時の音楽史ときちんと照合しながら跡付けていられる点、とても勉強になりました。メッサジェとプッチーニの関係など、初めて知りました。永い間上演されていないプログラムを舞台にかけるのは、本当に大変なお仕事だと実感しました。



各幕の最初には金春流能楽師山井綱雄氏による能が披露された。メッサジェの曲は流麗で、「さくらさくら」のメロディーもアレンジされており、まるで能のために作られた曲のようだった。日本を題材とした知られざるオペラを発掘して紹介し、全曲日本初演した日本橋オペラの「お菊さん」の舞台は、日本のオペラ史に残る、貴重な公演となった。（オペラ評論家 石戸谷結子）

長崎が舞台のメッサジェの歌劇《お菊さん》（1893、パリ）が遂に日本初演の運びに。居福健太郎の繊細なピアノと指揮者兼日本語歌詞作成の佐々木修の丁寧な差配も寄与し、皆の熱意が実ったものと思う。（音楽の友 2021年7月 オペラ研究家 岸 純信）

A. メッサジェのオペラ「お菊さん」が日本初演された。主催した日本橋オペラ研究会（会長福田祥子）は楽譜の修正から着手し、関係人物や長崎の史跡等の研究を重ね、その成果を適切に発揮しての好舞台。（モーストリークラシック 2021年8月 関根礼子 音楽評論家）



日本橋オペラ2022

歌劇「椿姫」

ジュゼッペ・ヴェルディ作曲

アレクサンドル・デュマ・フィス原作

フランチェスコ・マリア・ピアヴェ台本

La Traviata/Giuseppe Verdi

イタリア語上演・日本語字幕付/ピアノ伴奏

2022年5月22日（日）13:30開演 日本橋劇場（日本橋公会堂4F）

第1幕： 33分（休憩：15分）

第2幕1場： 42分（休憩：10分）

第2幕2場： 22分（休憩：15分）

第3幕： 31分

指揮/佐々木 修 ピアノ/越知晴子 演出/飯沼友規

《配役》

福田祥子/ソプラノ/ヴィオレッタ・ヴァレリー
村上敏明/テノール/アルフレード・ジェルモン
森口賢二/バリトン/ジョルジュ・ジェルモン(その父)
小川嘉世/ソプラノ/アンニーナ
山畑晴子/ソプラノ/フローラ
井出 司/テノール/ガストーネ子爵
飯塚 学/バリトン/ドビニー侯爵
奥村泰憲/バリトン/ドゥフォール男爵
矢田部一弘/バリトン/グランヴィル医師
根岸一郎/テノール/ジュゼッペ(下僕)

《アンサンブル》

町村 彰/テノール 吉田 覚/テノール
片沼 慎/バリトン/使いの者 田村智仁郎/バリトン
高橋千夏/ソプラノ 小宅慶子/ソプラノ
石井揚子/ソプラノ 菊池未来/メゾソプラノ
窪 瑤子/メゾソプラノ 片野田名帆子/メゾソプラノ

布目紗綾/バレエ 細野 生/バレエ

舞台監督/菅野 将 衣裳/てっしー ヘアメイク/エイミー前田
稽古ピアノ/鈴木架哉子, 松岡なぎさ 照明・舞台/(株)フルスペック

全席自由席 6,000円

主催：日本橋オペラ研究会（中央区社会教育団体）

日本橋オペラ後援会

後援企業(2022年5月1日現在)



医療法人
小池医院

医療法人
太田クリニック



(他匿名企業3社)